

開催地名	兵庫県高砂市
開催日時	令和5年8月26日（土） 10:00 ～ 11:30
開催場所	高砂市ユーアイ福祉交流センター
語り部	竹原 茂 （広島県三原市）
参加者	自主防災組織、防災士 50名
開催経緯	本市は1級河川が1本、2級河川が3本あり、播磨灘にも面しているため市内の大部分に河川洪水と高潮の浸水想定がある。また、浸水想定が5m以上の想定地区もあるため、避難を行うタイミングは非常に重要となっている。 また、平成23年にあった内水氾濫の後に大規模な災害が市内に発生していないという点、コロナ禍による地域社会の関係性の希薄化によって縮小傾向であった自主防災組織の活動の活性化が問題となっている。 このような状況下の中、自主防災組織関係者を対象にして、西日本豪雨の語り部の講演会を開催することで、自主防災活動の意識向上や避難への意識向上を図るため開催する。
内容	【命と暮らしを守るためにどうしたらいいのか】 （1） 三原市～埋め立てで出来た町～ 三原市は、山々に囲まれ海にも面している街である。1985年の地図と比べてもわかる通り、かなりの面積が埋め立てで出来た町と言える。新幹線や高速道路も通ることから今と昔ではかなり町の形も変わっている。浸水区域を見てみると、三原市はほとんどが浸水区域となっており、1000年に1度の雨が降れば、市はなくなってしまうことが予想されている。 （2） 平成30年7月豪雨災害 平成30年7月豪雨災害では沼田川が氾濫・破堤し高速道路（高くなっている道路）だけが残るほどの浸水被害となり、多くの家が全半壊した。一部では2階に避難し助かったという市民もいた。この災害に於いて、豪雨が降り始め、「避難指示（緊急）」が出るまでの約3時間で21名の命を奪っている。避難をするか迷い避難できなくなってしまう方、避難しなかった方が被害を受けてしまった。災害時は一瞬の迷いが命取りになってしまう。 消防団員に救助された方にアンケート調査を行った。ほとんどの回答者が「ハザードマップは見たことがない」、「見たことがあるが自分の家が浸水区域だということを知らなかった」、「訓練には参加したことがない」という回答だった。 京都大学教授の矢守氏は、一人でも多くの市民の方に危機感を持ってもらい、避難してもらうためには、より具体的（いつ・どこに）に避難方法を示す必要があると述べている。そのために、行政は日頃からの地域関係構築や避難訓練等の事前準備が必要である。また、市民は日頃から避難場所の確認や行政からの情報をただ待つのではなく自主的に避難し、家族や知人に呼びかけることが大切である。

	(3) 避難をするタイミング テレビやラジオなどで、台風や豪雨が予想される場合は、あらかじめ避難の準備をしておく必要がある。また、警戒レベルというものがある。これにより、行政から避難勧告が発信される。レベル4になると避難指示が告げられるが、これでは遅い。なぜなら、レベル4は台風や豪雨が直面している状況だからだ。風が吹く前、雨が降る前に避難することが適切な避難と言える。 (4) 自分たちの命は自分たちで守る 現在、三原市防災ネットワークは自主防災会を始めとし13団体で構成されており、その中には福祉活動やラジオ局、テレビ局も含まれている。ラジオ局は平成30年7月の災害時にもっとできることがあったとネットワークに参加することを決めてくださった。ラジオ、テレビの情報は、災害時においてとても大切になる。課題として挙げたのは、不確かな情報は発信できないということだった。そこで三原市防災ネットワーク内の防災士ネットワークの協力を仰ぎ課題解決を行った。その方法は、1つのグループチャットを作成し、市内各自主防災会の防災士からリアルタイムで被害状況や避難所の情報を送らせ公共電波に配信する方法だ。写真や動画も送れるメリットもある。また、オンライン勉強会や総会、市民防災訓練も欠かさず行っている。 防災訓練では、中学校と市民が合同で行ったこともある。この理由は「高齢化」だ。避難するにも、避難所を運営するにも、若い力は必ず必要となる。町全体の防災意識の底上げが、災害時に即戦力となる。 防災士として、行政に提案をしていくことも大切にしているが、行政は全知全能ではなく、災害時は市民同士が助け合っていくことも必要である。 市民、防災士、行政が団結し防災に向き合うことが最大の備えと考えている。 マザーテレサの言葉で、「平和の反対とは無関心である」とあるが、これは防災についても同じではないだろうか。
開催地より	西日本豪雨での被災状況や避難所での様子などを実体験ベースでお話頂いたことによって、避難のタイミングの重要性、平時から地域の自主的な防災活動の重要性が分かった。 今後、より重要性を増してくる自主防災組織との連携強化・情報の共有を行っていきたい。